

## 第121回役員会・第51回経営審議会 議事要録

日 時：2020年6月29日(月)14：00～15：10

会 場：大学本館 E-701 会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、片山理事、柳井理事、龍理事、田上理事  
井上委員、今川委員、岩松委員、松永委員、竹島委員

(メールによる出席者：久保委員、柏原委員、小林委員)

(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

### 議 案

- 1 2019年度計画に係る自己点検・評価について
- 2 2019年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

### 報 告

- 1 2019年度卒業者の就職状況について
- 2 2020年度入学者選抜試験の結果について
- 3 2019年度入試広報活動報告及び2020年度入試広報計画について
- 4 新型コロナウイルス感染拡大防止への取組みについて

#### 議案1 2019年度計画に係る自己点検・評価について

<質疑応答>

[委員]

○地元インターンシップ参加者数に関し、2019年度の受け入れ企業数101社の業種別会社数及び参加人員を教えて欲しい。

[事務局]

○2019年度における「情報系職種への就職者数」は対前年比39人増加しており、人気業種の一つとなっている。一方、学生が就職した情報系企業の所在地は、東京：32%、福岡：25%、北九州：9.9%と市内就職が少ないのが現状である。北九州市では情報系企業の市内誘致に積極的に取り組んでいることから、本学も協働に努め、学生の情報系職種へのインターンシップ参加機会の拡大、地元就職の促進に結び付けていきたい。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

#### 議案2 2019年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

<質疑応答>

[委員]

○収入減に関し、その要因は学生募集（志願者減、入学者減）となっている。報告3にもかかわるが、2019年度募集のどこに問題があって、2020年にはどこを改善する予定なのか。

[事務局]

○本学志願者減の要因としては、入試改革の影響により私立大学の専願傾向が強くなり、国公立大学全体の志願倍率が減少（4.7→4.4倍）したこと、また、本学は2019年度の志願者数が伸びたため、隔年現象による影響もあったものと考えられる。

今年度については、新型コロナウイルスの影響を受けている受験生に不利にならないよう、入試日程や実施方法等を検討しているところであり、7月末までに決定・公表する予定である。

さらに、今年度は高校生目線に立った入試広報活動に力点を置き、オンラインでのオープンキャンパスやガイダンス等の実施、SNS 対応機能の導入や外国語版の改善などの大学ウェブサイトの充実、そして高校生に感性が通じる在校生の活用による広報活動等、新たな取り組みを進めていく。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

#### 報告1 2019年度卒業者の就職状況について

<質疑応答>

[委員]

○新型コロナウイルスによる影響で内定取消という話も聞くが、本学ではどうか。

[事務局]

○幸いにも本学はなかった。今年度も気を付けていきたい。

[委員]

○北九州市内の就職者数が大きく減少しているが要因は何か。

[事務局]

○① 情報系職種への就職者が増加（内訳が、東京:32%、福岡:25%、北九州:9.9%で、情報系就職者の内、10%しか北九州地区に残っておらず、減少の一因となった。）

② 好景気に伴う売り手市場の関係で、一部上場企業の求人が前年比7倍となった。

③ その他、製造業への就職者数が減少した。

#### 報告2 2020年度入学者選抜試験の結果について

<質疑応答>

[理事長]

○北九州市（設置者）より市内から入学者を増やすようにということは言われるのか。本学の財政としては市内出身者より市外から来てもらった方がありがたいのか。

[理事]

○北九州市からは、市内就職については増やすように言われているが、市内からの入学者を増やすようには言われていない。市内の学校推薦も取っていない。本学としては、優秀な学生を全国から集めたいと考えており、財政的にも入学金だけではあるが、市内出身者は28万円程度、市外出身者は42万円程度なので市外の方が良い。

[理事長]

○優秀な方に全国から来てもらって、北九州市に就職していただくと良い。

[委員]

○入学者に、広島や愛媛出身者が多いというのが興味深かった。

#### 報告3 2019年度入試広報活動報告及び2020年度入試広報計画について

<質疑応答>

[理事]

○学生が本学を選んだ理由を把握しているのか。広報も北九大を知っている人に向けた広報と知らない人に向けた広報では、全く違うものになると思うが。

[理事]

○入学者は、入学者アンケートを取って志願理由は把握している。ただ不合格になってしまった志願者の志願理由は把握していない。西南大学などは志願者からもアンケートを取っている。

[事務局]

○インターネット出願の中で、アンケート項目を作ることもできるので、志願者データを集めることも検討していく。例えば、広島県でも西部と東部で本学への志願状況が全く違うので、広報も状況を考え行っていきたい。

[委員]

○サマースクールが減っているのは何故か。

[事務局]

○サマースクールをやめて、代わりにスプリングスクールにしていこうと移行させているためである。

[委員]

○広報も大事だと思うが、新型コロナウイルスで高校生も授業が遠隔になったり、授業の進捗が遅れていたりするので、広報より、入試が高校生にとって大事だと思う。学生を集める広報より、高校生が不安に思っている入試の選抜方法や出題範囲をきちんと公表すべきである。

[事務局]

○文部科学省から追試も含めた日程や試験内容を7月いっぱい公表するように言われている。総合型入試(AO)はすでに2週間遅らせ、出題範囲も配慮するように言われているので見直して公表する予定である。

#### 報告4 新型コロナウイルス感染拡大防止への取組みについて

<質疑応答>

[委員]

○オンライン講義で、学生のモチベーション低下や、学生、教員の課題や現状等について教えていただきたい。

[副理事長]

○新型コロナウイルスに係る緊急対策本部会議を毎週開催して、状況を共有している。特に新生のフォローや必修科目等を利用してオンライン上の意見交換をしたりしている。

[副学長]

○遠隔授業はログインやアクセスがうまくいくか不安があったが、想定よりスムーズにいった。初回は少しトラブルもあったが、現在前期の授業も順調に半分は終了している。教員は疲弊してきているが、1年生は初めからこんなものだと思って頑張って授業を受けているが、2年生以上が対面授業に慣れているので遠隔授業がきつそうだが、通常に比べて事前・事後学習時間が増えているのではないかと思う。明日、第18回緊急対策本部会議で、学生サポート状況が報告予定である。無事、通常程度の単位が取得できるか等が問題である。

[委員]

○就職活動がオンライン面接などになり、学生は大変ではないか。正直、企業側も苦慮している。

[事務局]

○キャリアセンターでは、WEB試験面接対策講座を早期から実施しており、キャリアカウンセリングもオンラインで行っているので、本学の学生は割とオンラインへ対応ができています。もちろんまだまだ支援は必要だと思うので支援していきたい。

[委員]

○新型コロナウイルスにより紙媒体の書籍の売り上げが増加しているらしい。読書時間ゼロという大学生が半数を超えているというデータもあるので、こういったときには是非大学生に読書をするよう大学から伝えてほしい。

[副理事長]

○非常にありがたい意見なので、ネット社会の中、どうやって本を読むように持っていけるか考えていきたい。

[委員]

○コロナ禍での学校運営の現状と問題点及び対策について(学生の教育、生活支援の観点から)

[事務局]

○国内での感染症発生を受け、2月「緊急対策本部会議」を設置し、感染予防に配慮した大学運営、学生の修学環境保持、さらには経済的支援などについて議論・検討し、方針決定してきた。遠隔授業実施にあたっては、教育の内部質保証の観点から、全教員に授業実施報告書を提出させるとともに、遠隔授業好事例の紹介や改善措置・助言のためのシステムを構築するなど、学修環境の保持に努めているところ。

今後も「緊急対策本部会議」において適宜、課題・問題の解決方策の検討、方針の見直し、対策の具体的な実施計画などについて協議・決定し、学生の修学環境の向上に努めていく。

[委員]

○コロナ禍において、今年度の海外体験プログラム等への対応はどのようにするのか。

[事務局]

○新型コロナウイルスの影響で、2020年春出発の海外体験プログラムの多くが中断・中止を余儀なくされた。留学を中断した学生に対し、帰国後本学での履修と並行して留学先大学における遠隔授業の受講を認める措置や、2020年秋以降の再留学の選択肢を提示するなど、学生が一旦決断した留学へのチャレンジを完遂出来るよう、大学として必要な支援を行っている。

今後留学を目指す学生に向けては、新型コロナウイルスに対する本学の対応方針を明確に説明するとともに、オンライン面談やSNS、ホームページを利用した留学情報の提供により、学生が留学情報にアクセスしやすい体制を整えていく。